

目 次

I ようこそ安曇野市豊科郷土博物館へ 博物館の概要 1

- 1 開館からの略歴
- 2 当館の目指すところ
- 3 平成 28 年度・活動方針

II 博物館運営体制 2

- 1 博物館職員の紹介
- 2 館内の施設
- 3 平成 28 年度予算

III 1 年間の活動報告 3

- 1 入館者数と内訳
- 2 企画した展覧会
- 3 実施した講座・講演・説明会
- 4 レファレンス
- 5 市民とつくる、友の会活動
- 6 学芸員実習など
- 7 館内外活動への取材と広報

IV 所蔵資料の管理と活用体制 9

- 1 収蔵資料数と主な内容
- 2 所蔵資料を活用している具体例

V 調査研究や展覧会企画 方向性を持った学芸活動 10

- 1 新市立博物館構想に向けた取り組み
- 2 安曇野の自然・歴史・民俗の調査研究

VI 近隣の博物館・資料センターとの連携協力体制 11

- 1 旧資料館収蔵資料等の有効活用
- 2 提携博物館等との協力体制

VII 利用者の意見からみる外部評価 12

- 1 展示室の『感想ノート』から

VIII 博物館のこれから 目標と課題 13

1 開館からの略歴

| | |
|----------|--|
| 昭和54年4月 | 多くの文化遺産の継承を使命とする生涯学習の場として豊科郷土博物館が開館しました。翌年、登録博物館になりました。以来、収蔵している自然・歴史・民俗・芸術等の資料を収蔵展示するとともに、各種企画展示を開催してきました。友の会を核とした活動も活発に続いています。 |
| 平成17年10月 | 5町村の合併により安曇野市が誕生しました。当館は財団法人による指定管理のもと、市唯一の博物館としての活動を継続してきました。 |
| 平成24年4月 | 安曇野市の直営施設となり、市の主要文化施設として文化の発信と地域に根付いた活動を行い現在に至っています。平成25年度、屋根とトイレを改修し常設展示を替えて、26年3月にリニューアルオープンしました。 |
| 平成27年11月 | 安曇野市新市立博物館構想策定委員会で検討策定された新市立博物館構想が安曇野市長への提言として示されました。新規建設される市立博物館の基本的内容が明示され、それを受けた市は15～20年後の新博物館開設を発表しました。 |

2 当館の目指すところ

郷土安曇野の自然・歴史・民俗を対象に庶民の生活にかかわる資料の収集・収蔵・管理に努め、それらの資料の調査研究を行い、その研究成果を展示することを心がけています。展示は人々の心と生活の豊かさに寄与するとともに、新たな文化創造に向けた土壌作りも目指しています。併せて、活動する博物館として生涯学習の場を提供し推進することも大切な目標とします。

3 平成28年度・活動方針

安曇野市の基幹総合博物館として、新市立博物館構想の方向と連携を保ちながら、以下の3点を重点目標に運営してきました。

◆ 博物館施設等との連携や交流を活発にして博物館活動の幅を広げ充実させます。

県内で初めての試みとなった長野県立歴史館企画展示『長野県の遺跡発掘2016（速報展）』の巡回展示の実現、松本市・塩尻市・大町市の博物館との資料展示協力や相互訪問見学会の実施を通して、市町村の枠を越える充実した博物館活動に取り組みました。

◆ 旧資料館や資料センターと連携して学芸活動の体制を強化していきます。

貞享義民記念館を含め各資料館や文化財資料センターと力を合わせ、企画展示や子ども体験教室などを開催し、収蔵している資料の展示と活用を多くし魅力的な学習会の実現に努めました。収蔵資料の調査研究や保管環境の検討改善にも取り組みましたが適確な情報集積とその活用面などで不十分な部分が残っています。

◆ 市民のみなさまや友の会会員との協働により調査研究活動の活性化を進めます。

引き続き安曇野市商工会との緊密な連携のもとに企画展が実現し、友の会との共催による明科廃寺の連続講座が積み重ねられました。より必要度の高い調査研究活動としての、第2次世界大戦の直接体験聞き取りや関連資料の収集を、友の会の部会を新設し協力して進める体制が整いました。



II 博物館運営体制

1 博物館職員の紹介

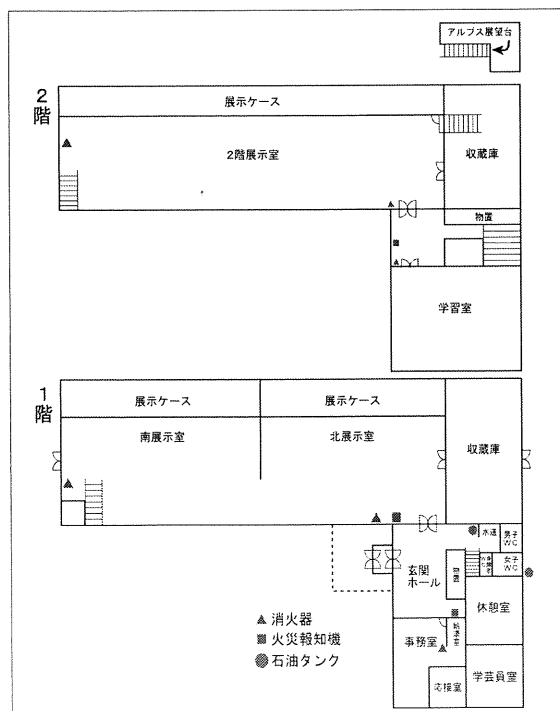
| | | |
|-----------------|-------|---|
| 館長 | 百瀬 新治 | 博物館を総括し、運営全体をみています。学芸員と同様に、展示の企画や作業に加わり講座や学習も行っています。館外活動としての出前講座、出前授業を行っています。 |
| 学芸員 | 宮本 尚子 | 展覧会や館内環境整備を担当し、展示全体の企画や展示作業を進めています。主に民俗等を研究調査し、収蔵資料等の受け入れや管理等を進めています。 |
| 学芸員 | 矢口 友美 | 館内施設や展示品の保守点検を担当し、友の会活動の支援を行なっています。主に歴史等を研究し、美術館博物館連携事業等を担当しています。 |
| 事務員 | 瀧澤 明子 | 外部との文書の作成や館の収支計算を担当しています。窓口でお客様の案内や入館者の対応をしています。 |
| 事務員 | 宮澤紀美子 | 窓口でお客様の案内や対応をしています。展示の実務的な作業や解説文の作成をサポートしています。 |
| 新市立博物館 準備室職員 | 倉石あつ子 | 展覧会の企画・展示サポート、出前展示の企画・展示、資料収集・収蔵管理等、民俗を主とした調査研究を進めています。 |
| 新市立博物館 準備室職員 | 松田 貴子 | 展覧会の企画・展示サポート、出前展示の企画・展示、資料収集・収蔵管理等、動植物を主とした自然関係の調査研究を進めています。 |

2 館内の施設

■敷地面積2,016㎡

■建物（鉄筋コンクリート造2階建）面積747㎡（延床面積1,020㎡）

■平面図



3 平成28年度予算

総額 約24,162千円

本年度は企画展解説パネル等製作費・研究紀要等刊行物印刷費・施設修繕費・機器リース料・電気代等光熱費・人件費等に使われています。



Ⅲ 1年間の活動報告

1 入館者数と内訳

| | | | | |
|----------|---------|-----------------|--------|-------|
| 入館利用者総数 | 17,149人 | (平成27年度数10,016人 | 対前年度比率 | 171%) |
| 有料入館者数 | 2,638人 | (平成27年度数 1,521人 | 対前年度比率 | 171%) |
| 児童生徒入館者数 | 6,893人 | (平成27年度数 2,195人 | 対前年度比率 | 314%) |

2 企画した展覧会および関連行事

①第32回「白鳥写真展」

4月16日(土)～5月22日(日) 開館日数33日
安曇野に飛来した白鳥の写真を公募し展示しました。
出品60人109点 入館者数1,276人 1日平均38.7人



白鳥写真展展示風景

②平成28年度夏季展

「安曇野 人の一生」

大人＝一人前になるってどんなこと」

7月16日(土)～8月28日(日) 開館日数38日
入館者数1,760人 1日平均46.3人
内容：生命の誕生から人は一人前になるまでどのような儀礼を経て大人になっていくのか。館収蔵資料・借用資料・バナー・パネルなどで分かりやすく展示しました。昭和30年代の産室の再現もして、興味深く見ていただきました。

◆関連講演会

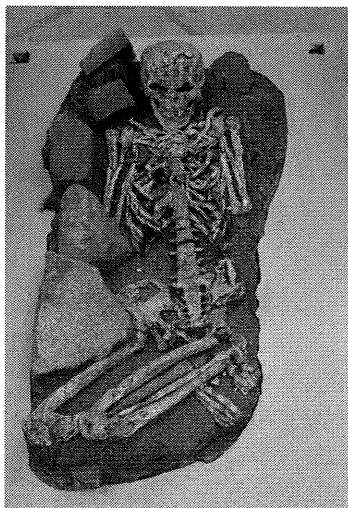
新市立博物館準備室 倉石あつ子氏「ヒトになる」



産室の再現

③「速報 長野県の遺跡発掘2016」(秋季特別展・県立歴史館巡回展)

9月3日(土)～10月16日(日) 開館日数38日
入館者数2,577人 1日平均67.8人
内容：県内における最新の埋蔵文化財調査の成果を、県立歴史館での展示を巡回する形式で実施しました。
※関連展示「この目で見たい！4000年前の縄文人一里帰りした明科北村遺跡出土の縄文人骨」(協賛展示)



北村遺跡 人骨展示

7月23日(土)～11月6日(日)
明科北村遺跡から出土した縄文人の人骨を展示することにより、貴重な遺跡や資料の保存や活用大切さを考える契機とした展示として実施しました。



歴史館巡回展示



◆関連講演会 トークセッション

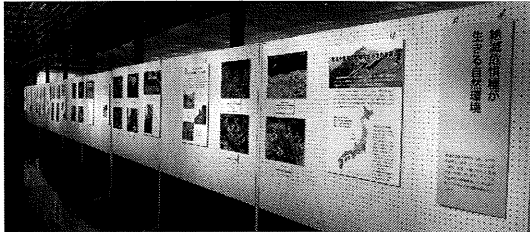
京都大学名誉教授茂原信生氏「北村縄文人はどのような人だったのか」

④「安曇野市レッドデータ展Ⅱ～失われゆく植物たち～」

3月4日（土）～4月9日（日） 開館日数32日

入館者数903人 1日平均約28人

内容：安曇野市に生育する絶滅危惧種の植物について、人々の暮らしや産業の変化に伴って生育環境が失われている現状を解説しました。併せて、当館が収蔵する貴重な植物標本や安曇野ゆかりの植物、市内の自然に関わる活動の紹介など、さまざまなテーマをとりあげ、植物の世界を深められる展示を行いました。



展示風景



標本展示

◆関連講演会・関連観察会

- ① 3月4日（土）自然講座1 橋渡勝也氏「安曇野の自然の魅力～北アルプス常念山脈とその山麓一帯で出あった植物たち～」
- ② 3月18日（土）自然講座2 東城幸治氏・津田義晃氏「生きものたちが歩んできたはるかな道を探る～生物系統地理という世界～」
- ③ 3月25日（土）早春の野鳥観察会 観察エリア：三角島周辺 講師：丸山 隆氏

3 実施した講座・ワークショップ

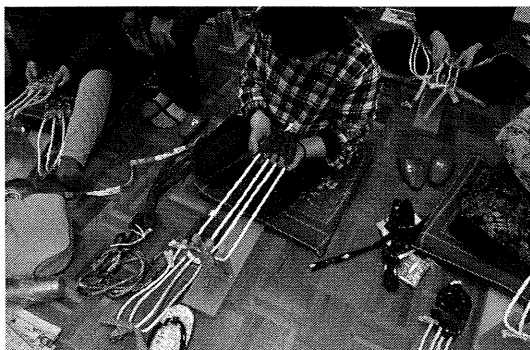
■ 博物館講座

(1) 民具ワークショップ

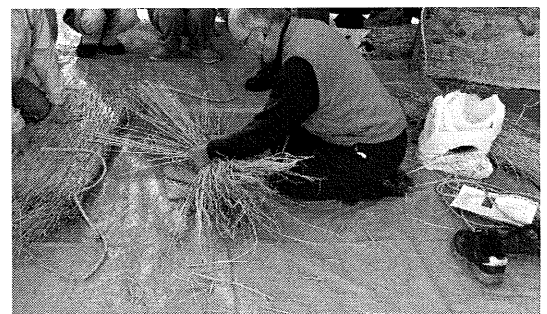
- ① 6月3日（金）民具の保存と活用・修復を考える 参加人数2人
- ② 8月2日（火）大麦の虫かごを作ろう 参加人数34人
- ③ 8月5日（金）自分だけのわらぞうりを作ろう 参加人数16人
- ④ 11月12日（土）布ぞうり作り 参加人数18人
- ⑤ 12月10日（土）俵作り 参加人数3人



② 虫かごづくり



④ 布ぞうりづくり



⑤ 俵づくり



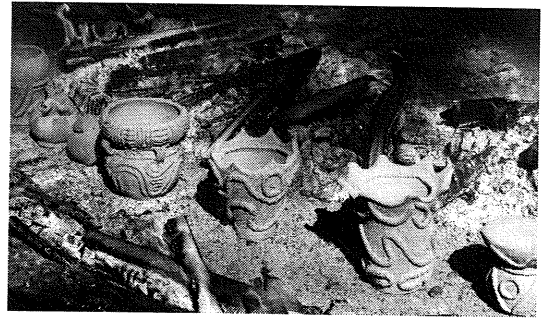
(2)「縄文土器を作ろう！」体験講座

6月25日（土）参加人数30人

10月15日（土）焼成参加人数30人

縄文土器を実際に作り、縄文文化に触れる体験をしました。

作った土器はおよそ4か月間乾燥させた後、穂高資料館横の広場で野焼きをし、1日かけて焼き上げそれぞれの出来栄を確認して持ち帰っていただきました。

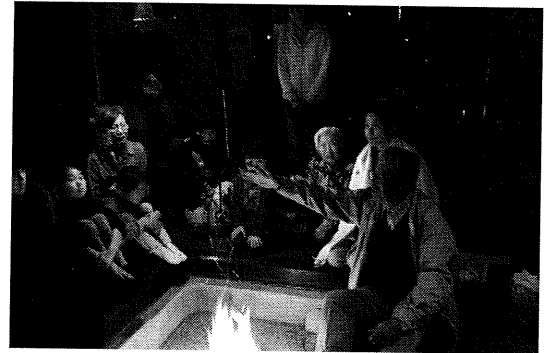


10月の土器焼き

(3)「昔の暮らしを体験しよう！」体験講座

10月29日（土）参加人数18人

国の重要文化財「曾根原家住宅」を会場に、いろりを囲んで戦争体験を聞いたり、虫かごづくりを体験しました。



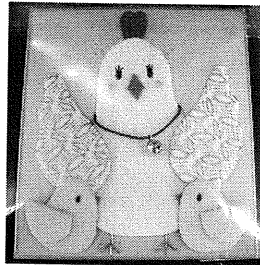
囲炉裏の火を囲んで昔のお話を聞く

(4)「押絵の干支をつくってみよう～酉年編～」

体験講座

11月23日（水）参加人数20人

恒例になっている干支の押絵づくりに挑戦しました。



真剣に押絵に挑戦

(5)「安曇野歴史散歩 岐阜県関市現地見学」

11月5日（土）参加人数37人



弥勒寺宮衛遺跡群の見学

(6)「安曇野歴史散歩」第5回講座講演会

1月14日（土）参加人数 80人

飯田市上郷考古博物館長の市澤英利氏に明科廃寺の実像について、上川路廃寺と伊那郡衛を例にお話しいただきました。



明科廃寺周辺の姿は？上川路廃寺と伊那郡衛の実態から



(7)「こたつを囲む博物館講座」連続講座

第1回 1月22日(日)～第5回 2月26日(日)

毎日曜日総計5回 参加延べ人数 157人

各学芸員が調査研究したことから講演内容を定め、参加定員を少人数にすることで、講師が直接呼びかけ、質疑応答ができる形式で話を聞く会を重ねました。

第1回は館長の「古墳を通して八面大王を少し考えると…」と題する話と、話の前にNPO 法人風土舎のメンバーによる「八面大王」の人形劇を上演していただき、参加の子供たちにも喜んでいただきました。



風土舎上演「八面大王」



館長講座

(8)長野県立歴史館との連携講座

2月19日(日) 参加人数 26人

県立歴史館学芸員小野和英氏に「信州のひな人形と節句贈答について」と題する講演をしていただき、その後、館内に飾ってある享保雛などを実際に見ながら、詳細な説明をしていただきました。



歴史館小野氏による「信州のひな人形と節句贈答について」



館内の雛飾りを見ながら説明

4 実施した出前展示・出前講座・出前授業等

博物館では新市立博物館準備室が中心となって、本年度からテーマをコンパクトにまとめた出前展示を行っています。2016年度は以下のようなテーマで展示を行いました。

1 出前展示

| 展示名 | 展示期日 | 展示場所 |
|--------------------|-------------------------|---------------|
| 「大きく変化した戦後安曇野の農機具」 | 平成28年6月18日(土)・19日(日) | 国営アルプスあづみの公園 |
| 「明科と大逆事件」 | 平成28年7月4日(月)から8月31日(水) | 明科支所ロビー |
| 「清澤洌と『戦争日記』」 | 平成28年7月16日(土)から7月30日(土) | 貞享義民記念館 企画展示室 |
| 「七夕-そのロマンと現実-」 | 平成28年7月23日(土)から8月8日(月) | 本庁舎1階ロビー中央 |



| | | |
|-------------------------------------|------------------------------|-----------------|
| 「盆-先祖を迎える日-」 | 平成28年8月9日(火)から 8月31日(水) | 本庁舎1階東エントランス |
| 「秋の七草-千年の時を超えて」 | 平成28年9月1日(木)から 10月3日(月) | 本庁舎1階ロビー中央 |
| 「安曇野 FOODS 2 貞姫から庶民まで・ 江戸から現代へ〜」 | 平成28年10月13日(木)から 11月7日(月) | 三郷支所1階ロビー |
| 「安曇野 FOODS 2 貞姫から庶民まで・ 江戸から現代へ〜」 | 平成28年11月8日から12月8日 | 堀金支所市民活動室 |
| 「安曇野 FOODS 2 貞姫から庶民まで・ 江戸から現代へ〜」 | 平成29年3月28日から5月7日 | 穂高交流学習センター「みらい」 |
| 「月を愛で秋の収穫を祝う」 | 平成28年10月4日~11月3日 | 本庁舎1階ロビー中央 |
| 「多文化社会の中に生きる私たち」 | 平成28年11月4日~12月22日 | 1階ロビー中央 |
| 「正月様どこまでござった? 正月ちゅう もんはいいもんだ」 | 平成29年12月22日~平成29年 1月31日 | 本庁舎1階ロビー中央 |
| 「安曇野の春の訪れ」 | 平成29年3月16日~平成29年 4月15日 | 本庁舎1階 |

◆小中学校への出前展示

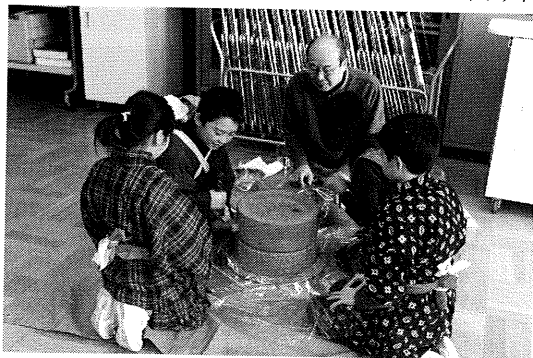
| | | |
|----------------------------|---|---|
| 「虫っておもしろい! 昆虫のゆかいな 色・形」 | 9月21日(水)~9月30日(金) 10月4日(火)~10月14日(金) 10月27日(木)~11月11日(金) 11月14日(月)~11月25日(金) 11月28日(月)~12月8日(木) | 南豊科小学校 中央廊下東側 穂高北小学校 回廊北側 豊科東小学校 視聴覚室 明北小学校 中央廊下 三郷小学校 1階保健室前廊下 |
| 「触って推理! 『長野県地学標本』と安 曇野」 | 11月9日(水)~11月22日(火) 12月1日(木)~12月13日(火) 12月14日(水)~1月9日(金) | 明科中学校2階理科室前廊下 三郷中学校1階理科室前廊下 豊科南中学校 豊科北中学校 |

2 出前講座

①昔の暮らし体験教室

市内全小学校3年生 781人参加

暮らしの道具等を多く持参し、実際に使う体験を通して一昔前の生活を楽しみながら学びました。



石臼を使って大豆を黄な粉に挽いてみる



暮らしの変遷の説明を受ける生徒たち

②小中学校への出前教室

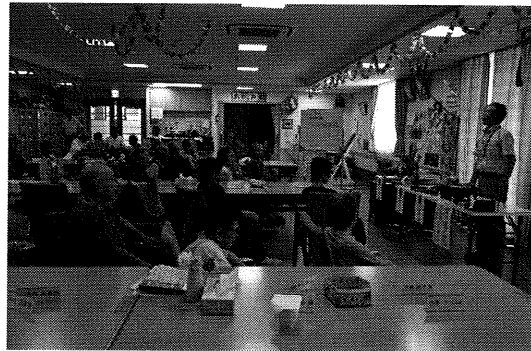
出前授業 市内小中 9回 児童 4,582人参加

要請に応じ、教科学習や現地見学等の授業を実施しました。



③「昔なつかしい道具で楽しむ」デイサービス訪問講座

8月 2会場 延べ参加人数96人
博物館収蔵の生活用品を使い、お年寄りに楽しんでいただきながら回想法による治療効果を試みました。



「昔なつかしい道具で楽しむ」

④各種講演・出前講座（他団体、他博物館等）

地域の歴史学習、他団体への講演会等 総計34回 3,226人参加
要望に応じて学芸員中心に調査研究の報告や博物館活動紹介等の取り組みに力を注ぎました。

5 寄せられたご相談等への対応

博物館事業に関する質問等や市内の文物に対して数多くのレファレンス（問い合わせ）や調査相談がありました。学芸員が分担してさらに調査等をして記録に残しているもので総計86件を数えますが、電話や展示資料等の簡易的な問い合わせはその数倍という数になります。

歴史資料や文化財に関する所在地や云われから疑問点とその究明方法等を問い合わせる質問が高い割合を占め、博物館での展示内容や刊行物の説明等への不明点やご意見も比較的多くありました。自分が住む地域の行事あるいはご自身が所有している文物の意味や価値をたずねる例や、今後の保護策及び寄贈等活用策を相談する例も目立ちました。

展示内容等に関しての不明点等博物館の調査研究に直接触れてのレファレンスについては、館内さらに教育委員会で情報を共有し今後役に立てることのできる方策を講じています。

6 市民とつくる、友の会活動

①部会と会員数（ ）内は人数

絵手紙（24） 押絵（5） 郷土史（28） 山草（25） 刺しゅう部（5） 自然部（82） 写真部（8）
植物画部（28） 書道部（24） 水墨画（4） 戦時生活（12） 総計 11部245人

②講座・学習会等の活動

各部で毎月1～2回の講座を催したり、自然探訪会や現地見学会を実施しています。友の会全体で80回の講座・学習会が開催され、6回の館外研修がありました。

③展覧会の実施

全6回の展覧会（山草・さくら草展、ボタニカルアート展、絵手紙展、水墨画・書道展）が催されました。各部が合同で開催する総合芸術展を含めて、総計1,135人の観覧者がありました。

④全体活動

- ・視察研修 長野県南進方面 参加人数23人
- ・美化活動 年3回実施 参加者総数80人
- ・会報発行 年3回

自主的研修活動とボランティアによる環境整備を大切に考え、役員中心に構想から実施まで行っています。

7 学芸員実習など

本年度の当館での学芸員実習の希望は2名でした。

博物館業務を具体的に実践することを通しての実技体験を重視した各種研修を実施してきました。また、各自の企画による教育普及講座や、ミニ企画展に取り組むことで、自ら調査研究して展示等に結び付ける創造性に触れての研修を行いました。



学芸員実習風景



8 館内外活動への取材と広報

展覧会情報と展示物の紹介、さらに体験講座や記念講演などの活動を各報道機関に周知しました。本年は昨年に引き続き、市商工会との提携で実施した企画展で協力いただいた飲食店へのチラシやポスター配布等で今までなかった客層へのPRができました。

一昨年、安曇野市制施行10周年記念企画展「興味津々安曇野 FOOD」を行いました。今年度も再度見たいという要望が何か所かから寄せられ、出前展示として簡易化した展示を行い、館の活動を広く発信することができました。また、3回の特別企画展を含め、13か所での出前展示への取材・広報を行うことによって新市立博物館準備室の存在を広く知っていただくことができました。こうした取材・広報活動を頻繁に行うことによって、結果的には博物館へ多くの客様に足を運んでいただくことができました。

また、一昨年度、館公式ホームページを開設したことで、館から直接情報発信できる機会が増えました。これまでの博物館活動の周知や、これからの活動の予告など、さまざまなシーンでホームページを活用していただけるよう、ホームページの更新を頻繁に行えるようにしていきます

IV 所蔵している資料をできる限り活用しています

資料管理と活用体制

1 収蔵資料数と主な内容

平成24年4月1日現在の収蔵品数と主な収蔵品名は以下のとおりです。

| | | |
|--------|----------|--|
| ■歴史資料 | 約13,000点 | 豊科町関係旧村文書・藤森桂谷文庫・小穴亀一文庫・旧吉野小学校教科書・南穂高村消防組資料・豊科町誌関係資料 |
| ■民俗資料 | 約1,700点 | 農耕・養蚕・漁労関係資料・衣食住関係資料 |
| ■美術資料 | 約300点 | 小林章・藤森桂谷・井口香山・小川大系 |
| ■自然資料 | 約5,300点 | 動物剥製・昆虫標本・化石標本 |
| ■蔵書その他 | 約7,000点 | |

収蔵品総点数 約27,300点

2 所蔵資料を活用している具体例

- 1階展示室の常設展示や館内各所でのコーナー展示として、各資料館等の収蔵資料を含め可能な限り多くを展示しました。
- 資料センター収蔵資料を含め、企画展に関連させる形で資料を位置付け展示したり、各種刊行物に掲載していく等工夫して活用しました。
- 体験講座や出前授業において民具等の実物に触れる機会を積極的に増やすため、使用方法や補修等に留意しつつ館外活用も活発に行いました。



馬と農耕



民家とこし井戸



1 新市立博物館構想に向けた取り組み

- 常設展示のリニューアルを経て2年、新市立博物館建設構想が具体的に進められる中で、さらに市内全体を網羅した調査研究の充実と魅力的な展示の実現を通し、より親しみやすく利用しやすい博物館を目指して一歩でも改善できるよう取り組んできました。したがって、新博物館構想での基本的な方向を大事に受け止め、前倒しをする形でその具体化を図る改善と進めた一面でもあった以下の活動です。
- 閉館となっている明科・三郷・堀金の歴史民俗資料館と安曇野市文化財資料センターに保管収蔵されている資料について、博物館の各種展示資料・体験講座の使用道具などとしてできる限り活用しました。具体例の一つは、特別企画のレッドデータブック展に、堀金資料館収蔵の昆虫・植物等標本類を主要な転移資料として活用したことです。
- 恒例のようになりつつある市内全小学校3年生を対象とした体験教室は、今年も1月末から2月上旬に集中して実施できました。穂高郷土資料館関係のみなさん中心に指導者チームが、当日の運営はじめ資料準備から修繕等一貫して関わっていただいています。さらに縄文土器づくり等他の講座に主体的に加わっており、今後の『市民との協働による博物館活動』に結び付けたいと考えます。
- 夏季特別企画展「安曇野 人の一生 大人＝一人前になるってどんなこと」を企画。安曇野地域に暮らした（暮らしている）女性たちが出産・育児をどのように行い、子どもを一人前に育て上げたのかを考える展示といたしました。あわせて、その時代的变化がわかるよう、展示の一角には昭和30年代までの自宅出産の産室を準備したり、子供服・育児用品・さまざまな子育て儀礼等を展示し、現在までに子産み・子育て習俗がどう変化したかがわかる展示をしました。現代の高校生の一人前に対する考え方も、アンケート結果を使用して明らかにいたしました。
- 秋季特別展は長野県立歴史館の企画展を巡回しての「速報 長野県の遺跡発掘 2016」と協賛企画「明科北村遺跡出土縄文人骨里帰り展」で実施しました。昨年につき、県下各地における埋蔵文化財調査の最新成果を出土資料で具体的に紹介しました。あわせて、安曇野市域の明科地区の北村遺跡から発掘された縄文人の人骨を展示し、埋葬の形や背丈などさまざまな場面想像しながら見ていただけるような展示を心がけてみました。私たちの郷土にあった遺跡の遺物として保存や保管の大切さ、遺跡への興味をもっていただくことを目的とした展示を工夫しました。
- 冬期間の特別企画展示として「安曇野市レッドデータブック展Ⅱ～失われゆく植物たち～」を企画いたしました。旧堀金資料館の収蔵資料の活用とともに、安曇野市域でかつて生息していた植物たちにも目を向け、絶滅危惧種に指定されている植物が、なぜ絶滅することになったのか、私たちの暮らす環境にも目を向ける機会としました。写真だけでなく、標本などを活用し、収蔵している標本の価値についても解説しました。

2 安曇野の自然・歴史・民俗の調査研究

- 学芸員を中心とする現地調査や聞き取りについては、見通しや継続性のある取り組みが難しい状況になっていますが、戦争関係の資料調査等について市民のみなさんとの協働による活動を始めています。
- 学芸員各自で調査等を進めている内容を公開する「こたつを囲む博物館講座」を昨年引き続き企画実施しました。4回の講座で約160名と予定を上回る参加があり、質問等活発なやりとりのある調査等発表会が実現しました。
- 近隣市町村博物館との連携による新たな活動の展開という課題について、松本市立博物館提唱の『松本藩領博物館構想』を受け、連携の方向について講座で提起し討論に加わる等で積極的に参画しました。展示物や博物館見学で相互協力が具体化しています。



1 旧資料館収蔵資料等の有効活用

- ①前述した「レッドデータブック展」を代表に、閉館等により展示等で常時活用できていない収蔵資料について、企画展等の展示に向けできるだけ積極的に活用してきました。見学等の対応を含め、旧来の資料館利用に近い対応を考えていますが、現実には難しい状況にあります。
- ②穂高郷土資料館と連携し、市内の全小学校への出前講座がより充実した内容で実現できるよう準備から補修等まで協力を密にして取り組みました。
- ③穂高郷土資料館の学芸的事業とりわけ展示について、より充実した内容になるよう両館職員で協力しています。ただし、資料館の職員体制からは展示替えや展示説明の更新はなかなか実現できずにいます。

2 提携博物館等との具体的協力

平成24年度より旧穂高学校給食センターを改修しての資料収集及び整理ならびに調査研究の場として「安曇野市文化財資料センター」が開設されて4年目を迎えています。常に市内の文化財等諸資料を収蔵する拠点としての資料センターに対応し、資料の整理・保存にあたり、博物館等の教育普及活動を支える活動をしています。

前述した県立歴史館との連携事業をはじめ、松本市立博物館、塩尻市平出考古博物館など県内の博物館との提携・協力による館活動を一層活発にしてきました。

本年度新たに実現した県立歴史館巡回展に合わせた協賛展示では、資料センターの調査から明科古殿屋敷遺跡の資料を展示し、調査結果について報告会を設けました。明科廃寺遺跡の発掘調査結果をもとにした講座を協力して実施しました。旧明科町歴史民俗資料館の収蔵資料等については、他の収蔵施設を含めた統一的対応が課題になります。

1 展示室の『感想ノート』に寄せられた声

◆「レッドデータブック展Ⅰ」

- ・レッドデータブック展は、素晴らしい企画で感動しました。自然環境の変化にともない様々な動植物が絶滅の危機にひんしていることがよく理解できました。昭和6～7・8年の貴重な標本類は見事でした。
- ・貴重な資料を見ることができて、非常に勉強になったが、これほど数多くの動植物がレッドデータになっていることに驚いた。安曇野を愛する市民としての責任を感じる。
- ・かつて小学校の頃、放課後教室の机で担任の先生が標本を作成していた姿を思い出します。故人となられた先輩・先生方もこのように日の目を見た展示で、さぞ喜んでおられることと思います。なかなかのお骨折りが苦労様でした。ますますのご活用・公開をと思います。

◆「第32回白鳥写真展」

- ・冬の寒い朝、早朝頑張って写真を撮られる方々に頭が下がります。心温まる写真、ありがとうございます。
- ・白鳥のいろいろな姿を見せていただきました。迫力ある写真が多く、写真家の皆様の意気込みが表れているものと思います。次回も楽しみにしています。
- ・白鳥の習性が垣間見れ驚きとともにとても楽しかったです。これからも頑張って素晴らしい写真を撮り続けてください。
- ・2月の撮影以来の豊科です。緑の季節はこうも違うのかと、当たり前のことなのに改めて思いました。自分の作品、他の方の作品、たくさんのシャッターチャンスが参考となりました。作品展終了前に来館できて良かったです。また、来シーズンも来たい（撮影に）と思います。
- ・生き生きとした白鳥に心が響きました。

◆「第26回友の会総合芸術展」

- ・友の会会員の方々の作品を拝見させていただきました。どの作品も心の入った作品で、皆様の熱心なご様子に触れさせていただき、感無量な思いです。



・幾度見ても各々の方の熱心な取り組みの様子が浮かび、感動いたしました。

◆夏季企画展「人の一生 大人＝一人前になるってどんなこと？」展

・5月に出産したばかりで、とても面白い展示でした。

・4月に出産しました。ちょうど子供の成長期と重なり、興味深く見させてもらいました。今、夏休み中ということもありますので、多くの子供たちに見てほしいと思います。すごろく、すごいですね。よく作ったな～と思いました。

・9か月の娘と伺いました。妊娠・出産・子育てと経験する中で、様々なイベント（帯祝・お食い初め、お節句など）がありますが、どれも子の事を願ってのことであることを知り、大切な宝物なんだなあということを改めて感じました。暑い中ではありますが、是非多くのお子さんに見ていただき、みんなは大事な大事な宝物なんだよということを感じ取ってもらいたいですね

・とても良い企画だと思いましたが、全体にいまひとつ工夫が欲しかったです。

◆秋季企画展「長野県の遺跡発掘展 2016」

・非常に良かった。これからも定期的にお願ひします。

・4000年前の人体の身長のあるのに驚きました。1度北村方面に行ってどんなところから発掘されたか現物を見たいです。

・人骨がきれいな形で残っていたので、昔もいまのようになくなられた人も大切にしていたのだなあ、と思いました（10歳男児）

・文献の中の北村人骨に会うことができとても嬉しく思いました。

・大変分かりやすい展示でした。できれば全体の図録などがあれば、もっと良かったと思います。

・古代のロマンを感じました。明科廃寺の瓦が立派で驚きました。

◆「第13回友の会絵手紙・第30回写真展」

・絵手紙に心をひかれました。

・今回2度目。毎年楽しみにしています。残念だったのは、ガラスケースに入った作品で、ほかの作品同様じかにそばで見えなかったです。とても素晴らしい作品を見せていただき、ありがとうございました。

・おばあちゃんの作品を見に来ました。えだ豆やかぼちゃ、スイカの絵などかわいいねといいながら、見ました。どれも素敵な作品でした。

◆第11回「友の会 ボタニカルアート展」

・ボタニカル始めてまだ一年目です。素晴らしい作品を見させていただきました。

・話には聞いていましたが、ボタニカルアートって素晴らしいものですね。よく観る、大事なことなのですね

◆第20回「友の会水墨画展・第42回友の会押絵展」

・それぞれの作者の個性が表現されて素晴らしい。努力のたまものと感じました。

・素晴らしい作品の数々、人の手がうみだす芸術に感動しました。

◆「第62回 友の会書芸展」

・力作感動しました。

・私も書道に経験があります。良い作品を見て励みになりました。

・同じ書をたしなむものとして、励みになりました。

◆冬季企画展「安曇野市レッドデータ展Ⅱ～失われゆく植物たち～」

・知っている草花にも名前のあること、見てはいても知らなかった貴重な草花たちに触れることができました。

・貴重な標本が沢山あり、とても感激しました。子供の頃には田、畑、ちょっとした山に育っていた植物が絶滅危惧種になっていた事に改めて驚きました。

・昔ながらの暮らしに戻ることはできなくても自然環境は私達の生活、生き方に大きくかかわっていることを改めて確認し、大切にしていこうと思いました。



安曇野市直営の博物館として再スタートして5年が過ぎようとする時、新市立博物館建設に向けた審議会答申を受け15～20年後の建設を前提に動き始めています。ここまでの博物館での事業内容が問い直される状況ですが、来館されるお客さまにとっていかに快適な博物館であり、魅力や親しみを増していく状況が実現するか、館職員全員で新博物館を意識し少しでも前進しようと努めてきた日々でした。博物館外部から寄せられたお声や数値として記録に残る成果などから、徐々にではありますが確かな手応えを感じ、今後の活動につながる見通しもできつつあります。しかし、その反面まだまだ至らない点や検討課題も明らかになってきています。

いよいよ新博物館の構想から準備室が設置され動き出した本年度から、市民の博物館としてより親しまれ信頼される博物館を目指してさらに努力しようと思っております。改善への取り組みの中で、以下の諸事項を重点に力を注いでいきたいと考えています。

より親しまれ信頼される博物館を目ざし一歩ずつ前進します

★市民のみなさまと提携し協働して活動する親しみやすい博物館に

展示替えの基本コンセプトでもあった、わかりやすい説明や体験できるコーナーをより充実させ市民のみなさまにより身近で親しみやすく利用できるよう取り組んできました。今後さらに一歩進めて、協働して調査等を進める友の会活動及び参加型の展示・講座などを、市民に呼びかける形で設営し具体化していきます。

★展示につながる研究調査の蓄積など学芸活動の充実で信頼される博物館に

企画性を重視し種々の展覧会・展示を繰り返し実施することが『売り』の一つであった郷土博物館のこれまででした。それに加え、中長期的見通しのもとテーマを決めだして継続的な取り組みで調査研究を積み重ね、その成果をより充実した展示として実現できるよう基幹博物館としての使命を大事に構想から見直していきます。

★他施設との協力連携による幅広く深みのある活動を特色とする博物館に

企画展示に市内企業やその製品の現状を展示紹介し、水と生活をテーマとした常設展示から全国名水サミットで発表したように、博物館外との連携で活動の幅を広げようと模索してきました。それとともに、閉鎖資料館等の貴重な資料を活用し市内各所で出前展示を企画するなどの機会を通し、宝物ともいえる安曇野らしさを幅広くより深みのある内容で提供していきます。今後とも厳しくも温かく、当博物館とお付き合いくださいますようお願い致します。

安曇野市豊科郷土博物館

〒399-8205 長野県安曇野市豊科4289番地 8
TEL 0263-72-5672 FAX 0263-72-7772
公式サイト <http://azuminohaku.jp/>

発行 平成 29 年 6 月 30 日



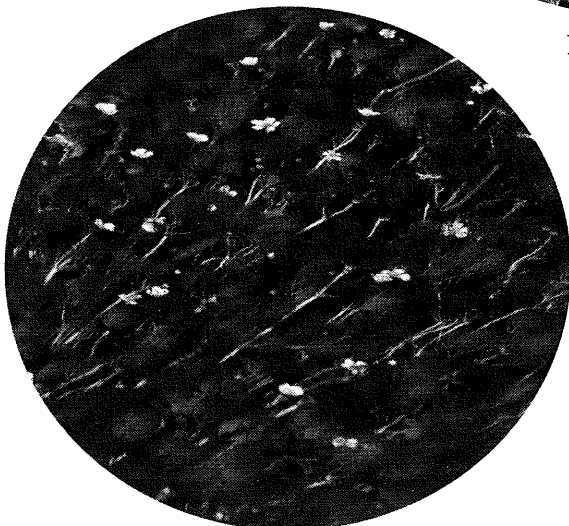
オミナエシ



タカサゴソウ



アズミノトリカブト



バイカモ



セツブンソウ

平成 28 年度

安曇野市豊科郷土博物館